

新しい大気海洋・環境科学の創成にむけて

Toward a New Initiative for the Atmosphere, Ocean, and Environmental Sciences

中島 映至 [1]

Teruyuki Nakajima[1]

[1] 東大気候センター

[1] CCSR, U. Tokyo

<http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>

大気海洋・環境科学セクションは、空に浮かぶ雲や洋々たる海など、我々にとってもっとも身近な地球表層系の自然環境を扱う研究を振興することを目指します。この分野には、地球温暖化や、古気候問題から将来の気候予測など、生活や身のまわりの自然環境の存続にとって大切な問題が多く含まれていますので、その形成メカニズムと変動メカニズムの理解、そしてそのモデリングは非常に重要です。そのため、大気や海洋、環境諸課題それぞれの研究は、すでに気象学会や海洋学会をはじめとする長い歴史を有する個々の学会において扱われてきました。しかし、我々の理解が深まるにつれて、システム間の相互作用や全体像の理解、複雑系としての問題解明などが新しい焦眉の課題になってきました。このような状況のもとで、本課題を地球惑星科学の中できちんと位置づけて議論することが、非常に有効であると考えます。このような理念に賛同していただき、多くの方々が連合のもとに結集して、新しい次元の連携と切磋琢磨をしていただくことを期待しております。

このような観点から考えたとき、重要な活動として次のようなものが特に挙げられると思います。

・研究の振興と交流：大気と海洋を含む地球表層系とそれを自然環境としてとらえた様々な研究を発表する場を提供すること。同時にこれらの様々な研究間の交流を通して、地球表層系をシステムとして理解する研究を醸成する。

・良い研究環境の創出：自立した研究者と、次世代を背負って立つ若手や学生が生き生きと活動できる場を作り出す必要がある。特に、近年のポストドク問題など、若手が自立した研究者として育つための環境を作る必要がある。

・表層系研究アーカイブの創出：すでに情報発信は新しい時代に突入しており、電子媒体を使った地球表層系の研究成果の迅速な発信と、誰でもが自由に閲覧できる場の確保が重要である。そのために、多国籍の研究者の間の様々な情報交換手段（電子ジャーナル、研究資料アーカイブ、フォーラム）を提供することが必要である。